

# 平成22年度第1回仙台市廃棄物対策審議会 議事録

平成22年7月8日(木)  
10:00～12:00  
仙台市議会第一委員会室

## I 次 第

1. 開 会
2. 議事等
  - (1) 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の改定等について
  - (2) その他
3. 閉会

II 出席委員数 出席 17名  
欠席 3名(荒井委員, 紅邑委員, 山本委員)  
(委員総数20名。詳細は別紙のとおり)

## III 議事

議長(海野会長)	<p>発言の際は、議事録作成のためにマイクの使用をお願いする。 運営要領により議事録の署名委員を選出する必要がある。飯塚委員にお願いしたいがどうか。</p> <p>(飯塚委員から了承の返答あり。他委員から異議なしの声あり。)</p> <p>後日、署名をお願いする。本審議会は、公開を原則としている。本日の議題について、非公開とする理由はないと思うので、原則どおり公開したいと思うが異議ないか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>それでは、公開ということにする。 本日は、一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の改定について、資料1に基づく議論が中心となる。時間の関係上、参考資料1から4の説明は割愛する。では、次第に従い、一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の改定等について、事務局よりご説明をお願いする。</p>
事務局(総務課 主幹兼企画係 長)	資料1について説明。
議長(海野会長)	<p>資料1について、序章の部分は委員の皆様概ねご承知のとおりと思う。本日は、特に11ページ以降のごみ処理基本計画について、審議をお願いしたい。 一番議論の中心となるのは12ページに記載のある計画の基本目標だと思うが、審議の順序として、まず15ページの施策の基本的な方向性について、12ページに記載されている計画の基本目標の検討を意識しながらご審議をお願いしたい。矢吹委員。</p>
矢吹委員	我々は3Rの推進に熱心に取り組んできた。リユース・リサイクルについてはかなり浸透しつつあると思うが、リデュースの取り組みが一番大事なことではないかと思う。次期計画では、もう少しリデュースに力を入れて記述をお願いしたい。効果が図りにくい部分もあるかもしれないが、発生抑制に係る記載がエコクッキングくらいということ

	で、内容が少し薄い気がする。
議長(海野会長)	そういったことも踏まえ適宜改定したい。内田委員。
内田委員	低炭素都市づくりという表現は、低炭素という概念が二酸化炭素の排出抑制という概念と結び付けられる人であればよいが、一般の市民が、自分の生活にどのように反映されるのかといったことが見えない。一般の市民にアピールをする際には、例えば地球温暖化対策に配慮した等、もう少し分かりやすい表現にしてはいかがかと思う。
議長(海野会長)	吉岡委員。
吉岡委員	<p>低炭素都市づくりに関して、エネルギー利用や焼却ごみの削減といった内容が全て地球温暖化対策に結び付けられて書かれているが、温暖化対策としての低炭素都市づくりということではなく、温暖化対策の他にエネルギー問題も含めた低炭素都市づくりという位置付けの表現に変えられたらどうかと思う。</p> <p>また、資源循環都市づくりに関する記載について、法的な観点からいうと、まず循環型社会形成推進基本法などリサイクル推進に資する法律が存在し、それを踏まえて、廃棄物処理法などの適正処理に資する法律がある。この記載内容についても、文脈をそのような順番に変えてみてはどうか。</p> <p>先ほどのリデュースに資する取り組みについて、リデュースが最初に取り組むべきことであるということは委員の方々のご承知と思うが、市としてどういった取り組みが出来るかとなると、具体性を打ち出しにくい部分はあるかと思う。リユースやリサイクルとは異なり、製品を作る側やそれを使う消費者がごみを発生させないようにするという、どちらかというところもあり、具体的に施策として計画に掲げることができるかどうか、議論の余地はあると思う。</p>
議長(海野会長)	今後考えていきたい。加藤委員。
加藤委員	基本的な考え方はよくまとまっていると思うが、今後はコスト概念、経済性といった観点が重要である。施策の基本的な方向性の中には、経済性を考慮した効率的で適なごみ処理体制という表現はあるものの、この部分はもう少し大きく取り扱っても良いのではないかという気がする。基本的な方向性(1)～(3)の他に、(4)として経済性に係る項目を設けるべきではないか。
議長(海野会長)	鈴木(泰)委員。
鈴木(泰)委員	10年間の計画ということは、現在10歳の子供が20歳になるということ。今後は、小学校・中学校などの学校において、普段の授業の中で、あるいは課外授業などを通じて、ごみ発生抑制といった理念を持ってもらうような教育・指導が必要ではないか。
議長(海野会長)	高橋委員。
高橋委員	<p>私も、今の子供達が成人を迎える頃の目標という受け止め方をしていた。</p> <p>今の子供達が大人になったときに、どういう意識で社会生活を送るのだろうと考えると、今の日常生活の延長線上にあるのだろうと思う。</p> <p>今年、富沢小学校が開校したが、同校が掲げる課題のなかに、地域特有の課題を把握</p>

<p>議長(海野会長)</p>	<p>することに努めていくというものがある。例えば、富沢地区のように人口が増えていく地区もあれば、逆に人口が減っていく地区もある。仙台市全体として考えるほかに、地域特有の課題を踏まえた働きかけということも必要ではないか。</p> <p>小学校では、4年生時に焼却工場の見学あるいは同様の学習を行っているが、ごみの推移などの学習をする際には、ごみを処理するための費用ということも学習する。基本計画の中でも、コスト面についてももう少し触れていただいてもよいと考える。</p> <p>いろいろご意見を頂戴したが、内容について整理し、事務局と検討しながら改善に努めたい。吉岡委員。</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>小学校の社会科見学ということでは、ごみ焼却施設を見学することも重要だが、ごみ焼却施設はきちんとした設備で適正に処理している施設であり、考え方によっては何でも出していいということになる可能性もある。先ほど意見があったリデュースを第一として進めていくということであれば、埋立処分場を見学して、最終的にこれだけのごみが捨てられているということを見せることも非常に効果的ではないか。</p>
<p>議長(海野会長)</p>	<p>では次に16ページ以降の施策について、ここは項目が多岐に渡っており一つずつ検討する時間は無いかと思う。後々表現の変更等も可能かと思うので、12ページの4つの基本目標にかかわる内容を中心に、ご意見をいただきたい。岡本委員。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>市民、事業者、市が連携して取り組んでいくということは大変重要だと思うが、ごみ処理という分野は、家庭における取り組みと事業者の取り組みで仕組みが異なる部分が多く、取り組みは進んでいるもののまだまだやっていたらかなければいけない部分もあると思う。</p> <p>目標は総量で表現されているが、生活ごみの目標、事業ごみの目標、といったものを個別施策の中で定めていただきたいということと、市民、事業者、市の責務についても、連携は重要ではあるが、まずそれぞれの主体がそれぞれの分野できちんと取り組みを進めて、併せて連携も進めていく、ということをもう少し強調し、明記してもよいと思う。</p>
<p>議長(海野会長)</p>	<p>松坂委員。</p>
<p>松坂委員</p>	<p>先ほど学校教育の関連で、焼却施設の見学や最終処分場の見学といった話があったが、私たちの業界では金属、古紙、びん類など様々なものをリサイクルしており、町内会や老人会などの見学を受け入れている。ただ、児童や生徒など学校の見学がほとんどない。見学に際してはいろいろと条件があると思うが、例えばびんやペットボトルがどのようなものにリサイクルされるのか、一般の市民の方々はほとんどご存知ない。そういったことをきちんと理解していただかないと、なかなかリサイクルは進まないのではないかと思う。</p> <p>それから、私もそうだが、今後は仙台市でも60歳以上の人口が増えていき、20年後には市内の3割を超える人が60歳以上になる。医者からは2kg以上のものを持つのは腰やひざに一番負担になるから止めていただきたいと言われる。しかし、ごみは少なくともしようとしても2kg、3kgは出る。1週間程ためて10kgとなると、集積所まで持っていけなくなる。まだ先の話ではあるが、ごみの収集についてはそういったことも踏まえて考えていかなくてはいけないと思う。</p>
<p>議長(海野会長)</p>	<p>学校教育については、学校の先生だけではなく、環境局の担当者や廃対審の委員などが加わって少人数で検討するなどの手法も考えられる。事務局には、どういった立場の方が集まって検討するとよいか、考えていただきたい。樋口委員。</p>

樋口委員	<p>粗大ごみは平成 13 年から戸別有料収集が始まったが、どうしても困ったときに出すだけで、各家庭では粗大ごみが大分たまっているという話も聞いている。有料収集は構わないと思うが、もう少し集めやすい仕組みを考える必要もあるのではないか。</p>
議長(海野会長)	<p>具体的な施策を検討する段階では、そういったことも考える必要があると思う。鈴木(泰)委員。</p>
鈴木(泰)委員	<p>仙台市中心部は、東日本から、あるいは全国からの観光客も含め大勢の市民が行き交うが、街中を走っているごみ収集車は、いかにもごみを集めているという配色になっている。これが消防車のように鮮やかな赤や、JRの車両のような綺麗な配色であれば、それを見た人はきっと感激して、ごみについて関心を寄せ、目標達成にも資すると思う。</p>
議長(海野会長)	<p>庄司委員。</p>
庄司委員	<p>子供達へリサイクルの現場を見せるということはとても大切だと思う。  民間の事業者の中には、リサイクルの取り組みを進めて、ほとんどごみを出さないというところもある。そういった取り組みをしている事業者の情報を広く周知し宣伝していく仕組みがあるとよい。  また収集運搬について、現在、本市のごみ収集は民間に委託しているわけだが、計画の中にごみ収集運搬車両の低公害化の推進とある。低公害車への買い替えとなると高額な費用が発生するが、ごみ収集は特殊な業務であり、行政から何らかの支援をしていくことも必要ではないか。</p>
議長(海野会長)	<p>林委員。</p>
林委員	<p>これからは、高齢世代を対象とした教育も考えていくべき。いま団塊の世代が 60 代前半で、10 年後に 70 代になる。その人たちが退職して家にいるようになったときに、ごみ減量・リサイクルに積極的に関わっていくような仕組みを作っていくべき。  昔、私が住んでいた地域では、町内の小学生が各戸を回って新聞紙を集めていた。しかし、今住んでいる地域は小学校が 2 クラスしかなく、小学生が各戸を回って回収するのは非常に負担が大きい。そうすると、高齢世代の方々を上手に組織に組み込んでいくような仕組みを考えていくことも必要になる。若い人が多かった時代の仕組みのままでは、いずれ立ち行かなくなる。若い世代と高齢世代を上手に組み合わせなければいけない時代になってきている。</p>
議長(海野会長)	<p>それでは、次に 12 ページの基本目標についてだが、事務局からはごみ総量、リサイクル率、焼却処理量、温室効果ガス排出量、この 4 つを目標項目として設定したらどうかという提案があった。ごみ総量については、従来は一人一日当たりのごみ排出量という基準であったが、それは生活ごみと事業ごみを合算しているため、必ずしも生活感覚とは一致しないということで総量としたということであった。その他の項目についてもそれぞれ説明があったが、ごみの総量という考え方についてどうか。岡本委員。</p>
岡本委員	<p>ごみ総量全体として、33 万トン以下と言われても、市民が自分の生活ではどのくらいなんだろうと考えてもなかなか実感することが出来ないと思う。  可能であれば生活ごみは一人当たり、あるいは平均的な家庭当たりではこのくらい減量する目標となっている、また事業ごみについては、このくらい減量する目標となっている、そして総量としては 33 万トン以下にする、という表現にしていただけると、そ</p>

	<p>それぞれの家庭や事業所で、どのくらい減らさなければいけないという実感ができて良いのではないかと。</p> <p>目標数値を3つ並べるのはどうかと思うが、やはり生活者単位での目標というものはどこかに明記していただきたいと思う。</p>
議長(海野会長)	その点については後ほど事務局から。千葉委員。
千葉委員	<p>ごみ総量を10%以上削減、4万トン削減ということだが、いただいた資料だけでは、適正な水準かどうか判断がつかない。過去10年では大体46万トンから36万トンと約10万トン減量ということだが、今回どのような経緯で10%削減、4万トン削減ということになったか、ある程度細かい資料をいただきたいと思う。</p>
議長(海野会長)	鈴木(昇)委員。
鈴木(昇)委員	<p>ごみ総量を10%削減ということだが、やはり生活ごみと事業ごみで分けて設定したほうが、分かりやすく啓発できるのではないかと。そして実際にどのような啓発手法を用いていくか、もう少し詳しく触れてもよいのではないかと。</p> <p>また、生ごみについては、生ごみ処理機で生成した乾燥生ごみと野菜の交換事業を実施しているが、この交換事業について、回収拠点増加、広報強化等で徹底していけば、ごみ減量も進むのではないかと。</p>
議長(海野会長)	矢吹委員。
矢吹委員	<p>ごみ総量を10%以上削減、33万トン以下にするという根拠がよく分からない。</p> <p>現在取り組んでいる生ごみと紙ごみのリサイクルを進めていくと、全体の総量がかなり減るのではないかと。10年後を目指してたった10%の減量、というのが数値を見たときの印象。少し気合の足りない数値かと思うのだが、数値の根拠を教えてください。</p>
議長(海野会長)	松坂委員。
松坂委員	<p>人口も減少傾向であり、10%減量というのは可能と思う。しかしこれまでは、容器包装リサイクル法や粗大ごみ有料化、家庭ごみ等有料化といった施策の効果によって、ごみの減量・リサイクルが進んできたといえる。</p> <p>家庭ごみには、生ごみの他に紙類も相当量が混入しているわけだが、紙類定期回収で回収した紙類は、集団資源回収で回収していたものが流れてきたのか、実際に家庭ごみから分別されたものか、分析することが重要なことではないかと。</p>
議長(海野会長)	加藤委員。
加藤委員	<p>リサイクル率について、10年後に40%以上としているが、食品リサイクル法では食品小売業においても平成24年度までに、業界全体でリサイクル率を45%以上にするという目標が示されている。事業者側としては、あまりに高い目標は自分の首を絞めることになりかねないが、事業者の取り組みを踏まえ、もう少し検討の余地があるのではないかと。</p>
議長(海野会長)	内田委員。

内田委員	<p>先ほどから、数値目標の算定根拠についての質問が相次いでいるが、ごみ総量、リサイクル率、焼却処理量というのは相互に関係があるのだろうと思う。</p> <p>例えばごみ総量を10%削減してリサイクル率を40%以上にすれば、焼却処理量が結果として16%以上削減できるなど、お互いに関連があるのであれば、どこに重点を置いて目標水準が算定されたのか、ご説明いただきたい。</p>
議長(海野会長)	<p>整理すると、第一にはごみ総量を33万トン以下にするということについて、その算定根拠をお示しいただきたいということ。</p> <p>第二には生活ごみと事業ごみを分けてそれぞれについて目標設定をし、努力目標というのを考えてみてはどうか、という意見に対して、事務局ではどのようにお考えなのかということ。</p> <p>第三には、3つの目標数値が独立に設定することが可能なのか、指標間に関連があり2つを決めるともう1つは自動的に決まってしまうような関連があるのか、即答ではなくても構わないが、ご説明をお願いします。</p>
事務局(総務課主幹兼企画係長)	<p>では、目標数値の考え方について説明させていただく。</p> <p>まず、単純推計値については先ほど説明のとおり、現行計画を現状のまま継続した場合を想定している。</p> <p>それに対して目標については、これまでの取組みの徹底強化をすることによって、次のようなことが可能だと考えている。すなわち、第1に、事業系可燃ごみに含まれる再生可能紙類は、現在26.5%となっているところを20%まで削減する。第2に、食品リサイクル法に基づく事業者に対し、リサイクルルートへの誘導を図る。第3に、家庭ごみに含まれる再生可能紙類を25%から20%程度まで削減する。第4に、家庭ごみに含まれる紙類以外の資源物、缶・びん・ペットボトルやプラスチック製容器包装などについても含有率を2割ほど削減していく。以上のようなことを考えている。</p> <p>また、新たな取り組みとしては、剪定枝等の緑化ごみについて、新たなリサイクルルートを検討し、計画対象年度の後半では一定程度分別収集し、チップ化や堆肥化などでリサイクルするというものも考えている。</p> <p>なお、容器の軽量化のほか、軽量容器へのシフトなど事業者の取組みも考慮している。リデュースについては、委員の皆様からのご指摘のとおり、具体的な施策として打ち出すのは難しい、啓発に頼らざるを得ない、というところはあるが、そういった期待値などを含めて、積み上げていった結果の数値である。</p>
事務局(リサイクル推進課長)	<p>目標値を生活ごみと事業ごみに分けてはどうかというご意見については、今後検討していきたい。</p> <p>目標の関連性については、様々な施策の影響について、それぞれ焼却されるもの、リサイクルに回るもの等あり、それぞれの項目を分母・分子に振り分けた結果、ごみ総量10%削減、リサイクル率40%以上という数値に、結果としてなったということである。</p>
議長(海野会長)	<p>つまり、例えばごみ総量を更に10%削減して、30万トン以下にしようとして設定したとすると、他の目標数値も必然的に動かざるを得ないということではいか。(事務局より肯定の意思表示あり) 了解した。吉岡委員。</p>
吉岡委員	<p>目標項目に埋立処分に係る項目がないが、数値的な目標が掲げられるかどうかは別として、何らかの記載を検討していただけないか。例えば埋立処分場の新設、拡大となると、その地域だけ埋立ごみが運び込まれて、周辺地域の自然環境に対する負荷も上がるということになる。法的には難しい面があると思うが、そういった問題を検討できるような項目が基本計画の中に入れられないか。</p>

議長(海野会長)	事務局から回答願いたい。
事務局(施設部 参事兼施設課 長)	まず埋立について、本市では埋立ごみのほとんどが焼却灰となっており、埋立について特段目標の設定はしていないが、焼却量を減らすことで埋立量を削減することができる。また石積埋立処分場について、第2期までを含めると、今後数十年分の埋立容量を確保できる状況になっている。
吉岡委員	今後、様々な事業者が、埋立処分場を新設するというような話が出ないとも限らない。そのときに、仙台市が、容量の増減を認めたり認めなかったりすることが出来るための検討項目のようなものを、基本計画に盛り込むようなことはできないか。
事務局(廃棄物 事業部参事兼 廃棄物管理課 長)	事業活動に伴って発生する燃え殻は産業廃棄物であり、民間の管理型最終処分場で処理することになる。金属やがれきなども同様。産業廃棄物の処理に係る計画ではそういった配慮も必要と思うが、今回の計画は一般廃棄物に係る計画である。
吉岡委員	仙台市として所管する部分があるかと思う。市民から見れば、生活系、事業系ということとはあまり関係ない。市として、埋立処分に関連する部分については今回の基本計画の中できちんと盛り込むべきと考える。
事務局(廃棄物 事業部参事兼 廃棄物管理課 長)	産業廃棄物については、3～4年前に、産業廃棄物処理指導方針として、審議会でもご審議いただいた。産業廃棄物なので仙台市は関係ないということではなく、毎年処理指導方針に基づき、実施計画を策定のうえ管理を行っている。
議長(海野会長)	今回の計画は一般廃棄物に係るものであって産業廃棄物には及んでいないが、市全体として考える必要はあると思う。適切な言及の方法を工夫したい。基本目標についてはどうか。加藤委員。
加藤委員	<p>温室効果ガス排出量については具体的な数値目標が設定されていないが、設定する必要があるか、もし設定するならばどういった根拠で設定するのか、整理する必要があると思う。</p> <p>また、目標設定に当たっては、今後の展開についても考え方を整理しておく必要があると考える。目標達成のためには啓発活動と同時に数値を公表するということが非常に大事だと考えているが、そういった考え方を整理しておかないと、目標が一人歩きしてしまうことになりかねない。</p>
議長(海野会長)	事務局から説明いただきたい。
事務局(環境部 参事兼環境企 画課長)	<p>温室効果ガスに関して、環境審議会でも別途ご審議いただき、ある程度考え方の整理が済んだので説明させていただく。</p> <p>まず国全体としては、1990年度比で2020年までに25%削減という目標が設定されているが、仙台市域ではどうすべきか、ということも当然議論している。</p> <p>とはいえ、仙台市の単独施策だけで実現できるわけではなく、技術革新であるとか事業者の努力といったことも踏まえる必要があり、また海外との排出権取引をどの程度見積もるかといった問題もある。今回は、25%のうち海外排出権取引を除いた分を15%として試算している。</p>

	<p>また、国の目標は1990年度比としているが、仙台市域の1990年度実績を算定するには推計に頼る部分が大いいため、仙台市では2005年度を基準としたいと考えている。なお国の基準を2005年度比で考えると、先ほどの15%減という水準は21%減ということになる。</p> <p>そして、仙台市域で展開が見込まれる施策について、仙台市独自の施策なども踏まえ、仙台市では2005年度比で25%減という数値を暫定的に算出しており、今後はこの数値の妥当性などについて検討を進めたいと考えている。</p>
事務局(総務課主幹兼企画係長)	<p>ごみ処理分野の温室効果ガス排出量については、現在算定手法が確立されていない状況で、環境省でも焼却ごみの中のプラスチック類のみに着目して算定している。算定手法の確立といった課題も含め、今後検討を進めていきたいということで注釈を記載している。</p>
議長(海野会長)	<p>市としては、環境審議会において市域全体の数値を算出しているが、その一部分であるごみ処理分野については、算定手法が確立されていないので、数値目標の設定がしがたいということか。(事務局より肯定の意思表示あり) 了解した。吉岡委員。</p>
吉岡委員	<p>温室効果ガスについて、数値を公表するということは極めて難しい。この計画で数値を公表すると、審議会としての責任が問われるということにもなりかねず、非常に精査をするなどしていかないと、数値は公表しにくい。</p> <p>ただし、ごみ処理分野に限っては、例えばごみ焼却施設から出るCO2の排出量、あるいはエネルギー効率、そういったものであれば、公表できる可能性もある。またリサイクルする場合のエネルギー投入量、エネルギー効率向上の推進などであれば、ある程度数値を公表できると思う。</p> <p>全体として数値を公表するというのは非常に難しいと思うが、数値として出せるかどうかを含めて、事務局でご検討いただければと思う。</p>
議長(海野会長)	<p>加藤委員。</p>
加藤委員	<p>この温室効果ガス排出量を算定する作業は非常に難しく、時間もかかり、あいまいな内容になる可能性もあるのではないかと。そういった観点から、あえて目標としてこの概念を盛り込むべきか疑問も感じている。</p>
事務局(リサイクル推進課長)	<p>次期計画においては、その柱となる理念として、上位計画である杜の都環境プランの内容を踏まえ、市全体の温暖化対策やエネルギー効率の向上といった観点を盛り込むために低炭素都市づくりというものと掲げさせていただいた。また、市民や事業者に対する一つの旗印となるのではないかと、目標項目に掲げさせていただいた。</p> <p>ただ、数値目標については国の動向等を踏まえ、今後の検討課題と考えている。</p>
議長(海野会長)	<p>時間も迫ってきたが、委員の方々は、まだまだいろいろご意見があろうと思う。是非貴重なご意見を事務局の方へお伝えいただきたい。</p> <p>なお、ご異論なければ、今後はそれらも踏まえ、私と平賀副会長で審議会としての中間案をとりまとめさせていただきたいがよろしいか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>では、ここで審議は終わらせていただく。事務局にお返しする。</p>



<p>事務局(総務課 主幹兼企画係 長)</p>	<p>本日ご審議いただいた内容を踏まえ、一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中間案について、会長、副会長とご相談しながら取りまとめさせていただきたいと考えている。</p> <p>また、議会等への報告や、市民意見募集などを行い、次回の審議会では、それらのご報告のほか、寄せられたご意見を踏まえて答申案としてご提示し、ご検討をいただくことを予定している。開催時期は11月中旬を予定している。日程は改めてご連絡差し上げたい。</p>
<p>議長(海野会長)</p>	<p>本日はいろいろ貴重なご意見をいただき有難うございました。</p> <p>( 閉 会 )</p> <p>議事録署名人 仙台市廃棄物対策審議会 会長</p> <p>仙台市廃棄物対策審議会 委員</p>